

しょうじゃく

正尺A遺跡調査の概要（豊栄市葛塚字子辰高入）

正尺A遺跡は、旧大口川によって形成された自然堤防（微高地）上に立地し、調査の結果、古墳時代前期（今から約1,700年前）の一辺約5mの竪穴住居跡1棟、土器を廃棄した穴1基のほか、様々な形の土器が多数出土しました。

今回発掘調査した範囲は集落跡の端の部分にあたるとわれ、遺跡は周辺に広がっている可能性があります。

遺跡の立地する自然堤防上には、今年度調査が行われた正尺C遺跡を始め、古墳時代前期の一連の遺跡が存在しており、同時期の遺跡密集地帯であるといえます。

土壌の科学分析から、遺跡周辺はクマザサに覆われた比較的乾燥した環境にあり、周囲より少し小高く安定した土地を選んで人々が暮らしていたことがわかりました。

現在までのところ、阿賀野川以北の地域において古墳時代前期の土器資料は少なく、その意味で貴重な発見であるといえます。

また、遺跡では、平安時代中頃（9世紀後半）・江戸時代後期（18世紀後半）の遺物も見つっており、この地域での土地利用の移り変わりを知る手がかりを与えてくれます。（尾崎高宏）



竪穴住居跡



古墳時代前期の土器

新資料展のご案内

埋蔵文化財センター 1 階の展示コーナーでは、平成13年2月17日から平成14年3月中旬までの予定で、平成12年度の発掘調査成果を皆さんにご紹介する「新資料展」を開催しています。

低湿地の調査で縄文時代晩期の丸木舟や櫓、草葺きの壁などが発見された青田遺跡（加治川村）、縄文時代中期の敷石住居や火焰型土器が発見された川久保遺跡（湯沢町）、古墳時代前期の方墳から青銅製の鏡が出土した奈良崎遺跡（和島村）、古墳時代前期の土器が多数出土した正尺A・C遺跡（豊栄市）、「駅家村」と記された木簡の発見で古代北陸道の「三嶋駅」との関わりが指摘された箕輪遺跡（柏崎市）、奈良・平安時代の「川の港」である蔵ノ坪遺跡（中条町）、以上7遺跡の最新の出土品・写真を展示しておりますので、是非この機会にご覧下さい。



新資料展示コーナー